

もろともに あはれと思へ 山桜

花よりほかに 知る人もなし

春の夜の 夢ばかりなる 手枕に

かひなく立たむ 名こそをしけれ

心にも あらで憂き世に ながらへば  
恋しかるべき 夜半の月かな